

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2771501158
法人名	社会福祉法人 なみはや
事業所名	グループホームなごみ
所在地	大阪市東成区中本3-17-1 (電話) 06-6971-9900

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年3月17日
評価確定日	平成20年4月21日

【情報提供票より】(平成20年2月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	10 人
非常勤	4 人
常勤換算	10.075人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500円	

(4) 利用者の概要(2月 17日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該グループホームはケアハウスやデイサービスを運営する母体を持ち、地下鉄の駅から近く、街中にありながらもまわりには住宅や学校がある中に立地しています。職員は入居者のニーズや思いを最優先に考え、入居者本位のケアを目指しており、実際に個々の希望に添った柔軟なケアがなされています。家族と入居者、ホームの関係も大切にされており、利用料をあえて持つてきてもらうかたちにし、その際に家族の意向や要望を聞くように努められています。また、医療面では関連病院との連携も密で、安心した体制が取られています。入居者は職員と一緒にゆったりと穏やかに過ごされています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題については、ユニット毎に理念を掲げたり、事務所前に写真で職員紹介をしたり、廊下にソファを置いたり出来る事から職員と話し合いながら取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については管理者が中心にユニットリーダーに意見を聞きながら作り上げられています。職員は評価の意義を理解しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、家族、老人会役員、地域包括職員の参加により開催されています。会議ではグループホームに対しての評価をして頂いたり、意見をもらう良い機会としており、会議の結果はホーム玄関に閲覧出来るようにしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームに家族が来られた際や毎月の手紙で利用者の様子を伝える事で家族からの意見を言って頂くように取り組んでいます。運営推進会議にも出来るだけ多くの家族に参加して頂き、意見や要望を聞く良い機会としています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺の掃除や散歩を通して近隣の方とコミュニケーションをとるよう心掛けています。自治会に加入しており、地域の地蔵盆や夏祭りに参加しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームなごみとしての独自の理念の他にユニット毎の理念も職員間で話し合い掲げられている。ホームの理念は掲示されていない。	○	ホーム独自の理念の掲示や地域密着型サービスのホームとして、住み慣れた地域で暮していくことや、役割について職員で話し合い、理念に盛り込む事が今後期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有をしながら日々ケアしており、利用者のニーズに応える事や職員都合にならないように利用者本位のケアをする事を通して等試行錯誤しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺の掃除や散歩を通して近隣の方とコミュニケーションをとるように心掛けている。自治会に加入しており、地域の地蔵盆や夏祭りに参加している。以前は地域の老人会に参加をしていた。小学校や中学校との関わりもまだ無く、現在、地域に溶け込むきっかけを探している。	○	利用者が地域とのつながりを持ち一員として暮らしていけるように、グループホームを理解して頂く事をはじめ、積極的に地域活動に参加する事が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題については、ユニット毎に理念を掲げたり、事務所に写真で職員紹介をしたり、廊下にソファを置いたり出来る事から取組まれている。今回の自己評価については管理者が中心にユニットリーダーに意見を聞きながら作り上げられている。職員は評価の意義を理解しているが、一緒には取組まれている。	○	日々のケアを振り返る機会になり、ケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族、老人会役員、地域包括職員の参加により開催されている。民生委員、自治会の方にも毎回声を掛けている。会議ではグループホームに対しての評価をして頂いたり、意見をもらう良い機会としている。会議の結果はホーム玄関に閲覧出来るようにしている。		

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護申請の際に行ったりしているが、相談をする機会等は持っていない。	○	運営推進会議の出席の働きかけや会議の報告をしたり、ホームで困った事など相談する事を通してで交流を持つ事が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	あえて利用料の支払い方法を振込ではなく現金受領としており、家族がホームに来られた際に日頃の暮らしぶりについて報告している。また、毎月手紙と写真も送付している。ホームでの毎月の行事案内はハガキで別途送付している。金銭管理については台帳にサインを頂き、領収書をお渡ししている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに家族が来られた際や毎月の手紙で利用者の様子を伝える事で家族からの意見を言うて頂くように取り組んでいる。運営推進会議にも出来るだけ多くの家族に参加して頂き、意見や要望を聞く良い機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に馴染みの職員のケアが出来るよう職員のストレス解消を重視している。職員が交代する際はダメージに配慮し、個別に対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時実践者研修や区内のグループホームとの研修や系列病院での研修に参加している。今後、外部研修など積極的に取り組む体制が考えられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回～2ヶ月に1回東成区内の他のグループホームと交流会を持ち、研修や相談、意見交換、ホーム見学等共にサービスの質を向上させていくネットワークづくりが出来ている。		

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居をしてもらったり、ホームから居宅に向いて生活状況を確認し、家族と相談しながら一人ひとりの状況に合わせた支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中で昔の話を聞いたり、散歩の際には地域について教えてもらったり、また、お手玉の作り方を教えてもらったり職員は利用者とは何でも一緒に行いながら過ごしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から思いを把握し、職員間で話し合い、共有しながら一人ひとりの思いを実現できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のケアの中で本人の意向を把握し、家族の希望や訪問看護師、理学療法士等の意見を聞き、職員の意見はカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回モニタリングがされ介護計画が見直されているが、実際のケアが先行され、計画が後付けとなり、随時見直しが十分に出来ていない。	○	日々の申し送りやケース記録、カンファレンスで一人ひとりのケアについて細かく話し合い、共有されていますが、介護計画は期間にとらわれず、本人、家族の要望や変化に応じて随時見直しする事が望まれる。

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に合わせて通院介助を行っている。また、個別の散歩や買物の他、利用者の告別式の付き添いも支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族の希望を聞いており、入居前のかかりつけ医とも薬等で連携をとっている。提携医療機関による往診や体調不良の際の連携もあり安心した体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に希望を確認し、ホームでの出来る事を説明している。一人ひとりの状態に応じて、往診の際に医師や家族と随時話しをし、職員とも共有しながらケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	出来るだけ丁寧な言葉遣いを心掛けており、職員会議でも議題に上がっている。また、個人記録等については事務室の鍵が掛かるキャビネットや棚の中に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先し、出来るだけその方の合ったペースで生活して頂けるように支援している。		

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材の配達には業者が入っているが、誕生日などはメニューを変更している。利用者は配膳や後片付けを出来る限り行っている。職員は一緒に同じ食事をし、会話をしながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や言葉掛けに工夫し、一人ひとりに合った入浴や毎日、夕食後の入浴も支援されている。希望すれば毎日の入浴も可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の演奏会の際、挨拶をお任せしたり、将棋や社交ダンス、書道、編み物などこれまでの趣味を支援したり、包丁とぎや水遣りなど得意な事などを行って頂いている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて、1時間の散歩をはじめ買物等に行っている。車椅子の方も外に出掛けられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出したい際には職員と一緒に付き添っているが、ホーム内の造りとして死角が多い事もあり、玄関、フロア入口、エレベーターは電子ロックが掛かっている。	○	見守りや一人ひとりの外出の傾向等について職員間で話し合い、鍵を掛けないケアの工夫が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回消防署の協力による防災訓練を実施している。また、ホーム独自でも訓練を行っているが、地域への働きかけが充分ではない。	○	地域の方の協力を得られるように運営推進会議や日ごろの話し合いを通して訓練と一緒に参加して頂くなど今後働きかけることが期待される。

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリーチェックされた献立が提供されており、食事摂取量、水分摂取量も記録している。一人ひとりに合わせてお粥にしたり、きざみやミキサー食を提供したり状態に合わせた対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に全体の雰囲気をかえた色合いになっており、共用空間は大変広く、食卓とリビングが別々になっている。また、畳を敷いて炬燵を置いたり、懐かしいミシンが置かれていたり、廊下やちょっとしたスペースにソファを置いたり居心地良い過ごせる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来て頂く働きかけをしている。各居室には洗面所が付いており、大変広く、使い馴れたダンスやマッサージチェアやテレビ、冷蔵庫、電気カーペット等、また、大切にされている仏壇も持って来られている。畳の居室や電話をひいている方もおり、一人ひとりに合わせた工夫がなされている。		